



## ▼速鳥 青函カップ優勝記

7月14日(木)20時ころクルー達が艇に集まったが、風が強くなり様子を見る事になった。22時に風が落ちて来たので、メンバー 荒山(艇長)、苅田、袴田、三木(FairLady)、山崎(Wing)の5人で出航した。3時間ごとにメンバー2名がキャビンで休憩を取り、常に3名はコックピットにいる体制で、これはレース中も同じ。整備しておいたオートパイロットとメインセールで青森に向かう。函館湾で豪華客船ダイヤモンド・プリンセスと並走することになった、とてつもなく明るいビルが移動しているように見える。速鳥は15日(金)朝8時前に青森到着。まず、朝食を取りに「乗っけ井」を食べに行き、街中温泉で湯につかり休息、昼食後に艇に戻る。夕方に選手会会場の八甲田丸に出向き、帰り道に港の公園のビアガーデンで飲みながらジャズ演奏を楽しんだ。16日(土)、早朝に起き、数値天気予報と潮流予報などをネットで確認。どうやら海峡の流れはとても弱い、だが平館付近は陸奥湾と海峡との間で潮が出たり入ったりする。午後3時以前は潮は出ているが、その後は湾に入る潮だから、午後2時までに平館に入りたい。陸奥湾の風は東側が強いという予報だったので、多少湾の東側を進み、それから北西方向に艇を向けて平館海峡の中央を抜けて行くことにした。陸地には近づかないという方針である。

10時レーススタート、あっという間にOcean boyが先頭を切って遠ざかる、大半は先頭艇を追いかけ、本船航路を向かっていった。我々は遅れながらポートタックで東側に向かった。メインセールが伸びきっていて、ハリヤードを一杯に張っても、アウトホールを引いても、何となくだぶついている、これでは切り上がれない。あまり成績は期待出来ないと思われた。ぎりぎりに切り上がるより少しベアした感じでスピードを稼ぐしかない。暫く走ると、ホタテのボンデンの玉だらけの海面に入ってしまった。構わず玉をかわしながら、大島灯台の緯度までは東よりを走った。そこからホタテのボンデンの海面を脱してスターボードで北上した。昼前には風が上がり、6ノット以上で走るが、ヒール角30度以上になった。あまりヒールしない艇だと前オーナーの話だったが... GPSで確認しながら平館に入ると、先頭集団が微風地帯で苦悩しているのが見えた。風は急に弱くなり、潮に乗りながらスピンドルでゆっくり走るしかなかった。それでも陸寄りにコースを選んだ艇が止まっているのを尻目に津軽海峡に入った。読み通りのコースで14時台に微風帯を脱して皆喜んだ。

艇長の荒さんがビールを片手に満足げだ。風の弱いのは変わりなく夕日が沈んで行く。夕日に照らされた雲の流れを見ると、木古内や知内海岸は低い雲がたれこめ、風が止まっている様子だが、大間方面は上空に流される雲が見えた。潮流は弱いと読み、多少東に流され大間沖に近づいても、そのまま進むことにした。すると風の道に入ったか4ノットで走り出した。大間付近から風が変わると読み、夜間の暗い中スピンドルを降ろして準備していたら、強い東風が吹き出し、6~7

ノットで順調に6艇を左舷に見ながら抜き去ることが出来た。東風が速鳥に吹いても西側を航行する艇に届くまで時間差があるからだろう。痛快な気分をコックピットの3人は楽しんでしたが、休憩中の2人は後で話だけを聞くこととなった。大鼻岬に接近した時には、先行艇を捉えていた。上磯方面に艇を向けないと、山の陰に入り風が止まってしまう。しかしその時のヘルムス担当のH氏が焦って艇を入船漁港方面に向け、早くゴールしたい気持ちに勝てなかった。ついに風の無い海面に突っ込み、先行艇を追うチャンスを逃した。それでも0時33分にゴールした。後に10分差のゴールだったと知った。古いメインセールで走れないと覚悟していたが、風が味方してくれ結果は優勝となったのだから、皆の喜びはひとしおだった。高齢者クルーの皆さんお疲れさまでした。 三木信弘

## ▼第3回ペリー提督来航記念ヨットレース

8月21日、ペリー記念ヨットレースが開催されました。

雨天の中で、微風の中のレースとなりまた、ソーセージを2回、それも別コースでのレースの為、あちこちで団子状態、スタボやらシモやら大きな声が響いていました。レース結果は別紙添付いたします。

思い出したくありません。

## ▼第3回 ペリー提督来航記念ヨットレースの成績表の誤りについて キナンボ 増田宣泰

第3回 ペリー提督来航記念ヨットレースの成績表の誤りについて

去る2016年8月21日に行われました、表記レースの成績表について重大な過ちを犯してしまい、関係各位に対しまして深くお詫び申し上げます。

これまで使っていました表計算ソフトのテンプレートは、今から21年前の1997年より使用していたもので、CR98やORC,IRCなどのレーティング変更や、従来行っていたタイムオンディスタンスでの計算方法、近年ではタイムオンタイムでの計算方法で行っております。これらの昔ながらの残渣が使用していたテンプレートに残っていました。また、用意していた計算シートは1レースのみしか用意してなくて、急きよ2レースの仕様に、その場変更したりもしました。雨の中で記帳したために入力の際に誤入力も発生しました。

いずれにしてもプリントアウトし配布してしまったのは、全く私の責任であります。重ねて深くお詫びをいたします。

再度総務委員会から配布された修正版のテンプレートは本年の青函レース用に、青森の千歳さんが作成したものを一部修正して使用させていただきました。今後は私が関係する場合は、このテンプレートを使用させてい

ただく予定です。重ね重ね皆様にお詫び申し上げます。」

## ▼ペリー会計

### 収入

男性会員	2,000円×	55名	=	110,000円
女性会員	1,000円×	8名	=	8,000円
学生	1,000円×	3名	=	3,000円
レースのみ	1,000円×	3名	=	3,000円
パーティーのみ	1,000円×	1名	=	1,000円
協賛金				10,000円
補助金				0円
			合計	135,000円

### 支出

ビール	18,000円
食材	23,932円
トロフィー	25,000円
雑費	
その他 副賞(加藤氏から)	
	合計76,932円

収入ー支出=58,068円(余剰金レース会計へ)

## ▼第25回エンルムカップ津軽海峡横断ヨットレース

昨年の夏、室蘭オーシャンボウイの中村艇長が、久しぶりに「函館、室蘭レースをやろう!」との一言から計画が始まった。1年間かけて前回(何年前だったか?)のシミュレーションを思い出し各機関申請も何とかクリアし開催までこぎつけた。参加艇数、函館6艇、室蘭2艇とやや参加定数が少なかったが、それでも各フリートを代表する艇、優勝候補ばかり。レース当日7時から南北海道外洋帆走協会ハウスにて艇長会議を開催、終了後各艇は出航準備に取り掛かる。9時55分の準備信号が上がりそれぞれの艇はポジション争いに舵を切った。スタート時の風は北北西の風4メートルとまずまず。10時のスタート信号と同時に一路、室蘭へ!しかし、リコール旗が上がり2艇がスタートやり直し、その後、もう1艇も本部船からの連絡でリコールと分かりスタートやり直し(名前は公表せず)各8艇は順調に津軽海峡に向かう。時間とともにやはり大型艇はスピードを上げ引き離しにかかる。小型艇は一発逆転を狙い、潮がきつい海峡ど真ん中を目指す。予想通り恵山沖では潮が逆方向に流れ各艇は風と共に潮にも翻弄される。ようやく恵山をかわすが先頭集団も無風に悩まされ距離を離せない。時間が過ぎる中、各艇リタイヤも脳裏をかすめたのではないか?しかし、徐々に風も上がり、確実に室蘭フィニッシュラインに向かう。ファーストホームはオーシャンボウイ。最後にデットヒートを展開したのは室蘭の「えとも」と函館「ギャロッパー」しかし、先にフィニッシュしたのはえとも!さすが経験を生かしての勝利!。全艇フィニッシュ後は温泉ゆららにてお互いの健闘称えゆっくり疲れを癒す。13時から表彰式がゆらら2Fで開催され大いに盛り上がった。IRC優勝は初参加のウイング、オープンではサンバードがその荣誉に輝く。山本艇長は函館市長杯をいただくもその手が緊張からかカップを落下、参加者の大きな祝福の拍手とともに苦笑をかった。しかし、久しぶりのエンルムカップは海峡を舞台とした青函とはまた違った味のするコースが何とも魅力的でまた来年も参加するぞ!との声が聞こえたとか聞こえない

とか?室蘭ヨット協会の小林会長も挨拶で来年も是非開催したいとの意向が挨拶から感じた。レセプション終了後参加者のほとんどが、実行委員会がチャーターした大型バスにて帰路に着いた。バスの中では楽しい酒に酔った勢いでいろいろな素面では言えないお話もちらほら聞こえた……。石川 彰

## ▼エンルムカップWing優勝レポート

Wing優勝です!!

とは言っても、亀谷さん、平松さん、塘内さん、橋本さんの4名が参加Wingメンバーと合わせて7名体制。経験も技術も知識もおんぶにだっこ。Wing-D-αと言う状態です。

リコール問題、電話が来なくても戻ってました!信じてください、えともが戻ってもX旗が降りなければ戻ろうと話していました。リコールを取り戻そうと海峡の本流に乗り10ノットで帆走することもありました。恵山岬の近くで止まっている艇を発見し、抜けるだろうと思っていましたが、風も落ち、潮に流され恵山岬に近づきます。このままではまずいとタックするので、なんと180度回頭してしまいます。

これを何度も繰り返す中、岬の近くにいた艇が走り出し、我々もチャレンジ。岬をかわすことが出来ました。そのあとも微風と潮に悩まされながらもなんとか夜明け。すると、全艇が目視できるのです。

先行艇はすでにゴールしたものと思っておりましたので、これはチャンスがあるのではと俄然やる気が出てまいりました。しかし、また風が落ち、ゴールの位置を私が勘違いし、遠回りしてゴール。

今回参加していただいた4人の力での優勝です。

彼らの燃料はアルコールです。

燃費はあまり良くありません。 Wing艇長 千葉

## ▼連絡事項

今回のエンルムカップでも感じたことですが、ロングレースでクルーが少なく参加出来ない艇や、ロングレースにクルーとして参加したい方の情報交換がもっとうまくいけば参加艇も参加人数も増えると思います。

会報を含めたメールの連絡網を上手に使いたいと思います。

早速ですが9月18日の佐井レースについてクルーがいれば参加できる方や、クルーとして参加したい方、メールください。

会報メール配信希望の方も少しづつ増えております。艇長はメンバーにお知らせください。

メールアドレス [wing-y-31s@ncv.jp](mailto:wing-y-31s@ncv.jp)